

国際ロータリー 第2660地区

2002～2003年度

地区委員会

活動報告書



ガバナー 井上 暎 夫



# 目 次

## 目 次

地区委員会の皆さまに感謝を .....	1
地区ガバナー指名委員会 .....	2
意義ある業績賞委員会 .....	3
<b>クラブ奉仕部門</b>	
クラブ奉仕委員会 .....	4
拡大・増強委員会 .....	7
情報・広報委員会 .....	8
<b>職業奉仕部門</b>	
職業奉仕委員会 .....	10
<b>社会奉仕部門</b>	
社会奉仕委員会 .....	11
<b>青少年奉仕部門</b>	
新世代合同委員長会議 .....	14
青少年活動委員会 .....	15
ローターアクト委員会 .....	16
インターアクト委員会 .....	18
<b>国際奉仕部門</b>	
国際奉仕委員会 .....	19
世界社会奉仕委員会 .....	19
青少年交換委員会 .....	20
<b>ロータリー財団部門</b>	
ロータリー財団統括会議 .....	22
財団情報・増進委員会 .....	23
財団奨学金・学友委員会 .....	25
研究グループ交換委員会 .....	26
財団人道的補助金委員会 .....	29
<b>米山奨学部門</b>	
米山奨学委員会 .....	31
<b>地 区 大 会</b> .....	33
<b>ロータリーの友</b> .....	36
<b>財 務 委 員 会</b> .....	37



## 地区委員会の皆さまに感謝を

ガバナー 井上 暎 夫

2002～2003年の地区委員会に出向頂き地区活動にご尽力頂きましたことに心より敬服致し感謝申し上げます。

本年度国際ロータリーのテーマ“Sow the seeds of Love 慈愛の種を播きましょう”のもとに、私の責務の遂行にお手伝いを頂きました。

また、2002～2003年ビチャイ・ラタクルR I会長は『ロータリアンとして、ロータリーの仕事をするのは、クラブとその会員であって、地区ガバナーでも、R Iの理事でも会長でもありません。私たちのクラブこそがロータリーの核心です。クラブを充実させるために、私達はトップダウンではなく、草の根レベルから立ち上がって働きます』と、言明されました。

私はこのことを受け、地区の役割を本来のクラブへの支援や情報提供に徹し、地区内の全てのクラブが活性化し充実するお手伝いをしようと決意致しました。そのために地区は原則事業をしないと声明しました。このことを実行するための地区組織が如何にあるべきかを、他地区の組織を参考に検討致しました。

一方、年々減少する会員数による収入減に対処することなく、地区剰余金を食い潰してきた地区財政がついに破綻寸前であることを知り、この解決策のためにも地区組織のスリム化を実現しなければと提案致しました。地区内クラブ会長の賛同を得て実施致すことが出来ました。

また、地区が主導しあるいは地区が行わなくては出来ない大きな事業については、IM単位での支援体制が取れるようガバナー補佐の皆さまの協力を得て定着できるように努力致しました。

本年発足致しましたリーダーシッププランによるガバナー補佐の誕生には大きな力を与えて頂きました。補佐の皆様にも感謝申し上げます。

ただ、永年続けられた組織や機能の改革がすぐ従前の活力を取り戻すことが出来るのか不安をもったスタートでした。しかし、委員会の皆さんのご理解を頂き、従来に劣らない活動をして頂きましたことは偏に皆様のお陰と感謝の一念で一杯です。

拠出金を値上げすることなく、ガバナー事務所移転による効率化と併せて地区財政も健全化の見通しが立ちました。この件も予算の削減にご理解を頂き、夫々に委員会にて知恵を出して頂き、ご協力を頂きました。皆様の心の中に改革の必要を感じて頂いた年度だったかと考えております。このことを若林ガバナー・エレクト、宮田ガバナー・ノミニー共々ご理解を頂き、継続の表明を頂きましたことは誠に心強くうれしい限りであります。

第2660地区の委員会がますます素晴らしい成果を挙げて頂けます様、お祈り申し上げます。

## 地区ガバナー指名委員会

委員長 寺田和之(大阪)

委員 中川章三(大阪城南)

同 近藤雅臣(千里)

同 吉川謹司(東大阪東)

同 柏木尚(豊中)

昨年8月号の月信において、2004～2005年度ガバナー・ノミニー候補推薦依頼を行いました。期日までにクラブから委員会への正式推薦はありませんでした。

また、地区ガバナー指名委員会が地区ガバナー・ノミニー候補者の選択を行うにあたっての選択の範囲は地区内クラブに提案された指名に限定されるものではないという国際ロータリー細則 第13条 13.020.4 の存在については、その際附記致しており、正式推薦の再提出を求める必要はないと判断致しました。

地区ガバナー指名委員会規約に基づき、2002年11月8日に開催した指名委員会において慎重審議の結果、全員一致をもって、大阪北ロータリークラブ会員、宮田宏章氏を2004～2005年国際ロータリー第2660地区ガバナー・ノミニー候補者として推薦することに決定しました。

宮田宏章氏は、ロータリー歴26年、今年度は大阪北ロータリークラブ会長とガバナー・ノミニーを、次年度はガバナー・エレクトとガバナー補佐を兼務されるなど、人格・能力に優れた立派なリーダーであります。当地区の改革と発展のためのご活躍を心からご期待申し上げます。

## 意義ある業績賞委員会

委員長 寺田 和之 (大 阪)

委員 吉川 謹司 (東大阪東)

同 柏木 尚 (豊 中)

意義ある業績賞受賞候補につきましては、ロータリークラブの有意義で卓越したロータリー活動に対し、R Iから「意義ある業績賞」が贈呈されます。

地区内全てのクラブに対し推薦方をお願いしましたところ、今年度は8クラブから応募があり、井上ガバナーと3委員の慎重審議の後、第1次選考を通過した3クラブについて井上ガバナーに第2次選考をお願いし、後日最終選考の結果、高槻東ロータリークラブの『会員から成る素人劇団の老人保健施設への慰問公演』を推薦することとし、2003年2月28日付で手続きを完了しております。3月3日、R I日本事務局へ書類を送付し、R Iの書式受理締切日までに提出しました。従って、今年度地区大会までに意義ある業績賞が授与される可能性はありませんが、次年度11月開催予定の当地区の地区大会までに受賞されることは確実と思われま

高槻東ロータリークラブは2月現在、会員数は47名であり、当プロジェクトに参加している会員30名が『劇団はぐるま座』と称し、1998年以来、連続して地域の老人保健施設への素人芝居による慰問奉仕を行っています。出演者の他、裏方として参加する者も多く、本職の手によるものは殆どありません。

行政や地域誌も広報活動に協力し、保健施設の老人も次回(2004年)の慰問公演を楽しみにしているとのことであります。

他の受賞候補にも見るべきものがあり、別途しかるべき表彰を行いました。

# ク ラ ブ 奉 仕 部 門

担当パスト・ガバナー 吉川 謹 司 (東大阪東)

## ク ラ ブ 奉 仕 委 員 会

委員長	井上 家 昌 (東大阪東)	親睦担当 チームリーダー	野口 幸 助 (大阪天満橋)
副委員長	大川 進一郎 (大 東)	委 員	中島 武 (大阪堂島)
規定担当 チームリーダー	川崎 壽 (大阪中央)	同	福西 幸 夫 (大阪心斎橋)
委 員	中野 憲 城 (大阪城東)	同	角井 勝 美 (東大阪西)
同	杉本 全 司 (吹田江坂)	同	石田 秀 (大阪西南)
同	益田 哲 生 (大阪北)	同	糸川 千恵子 (大東中央)
同	立岡 寛 次 (東大阪)	卓話銀行 担 当	小林 勝 (大阪ちゃやまち)
同	中山 賢 (池 田)		

本年度、ビチャイR I会長は「ロータリアンとして、ロータリーの仕事をするのはクラブとその会員であって、私たちのクラブこそがロータリーの核心」と明言され、クラブ奉仕関係では「充実したクラブの管理」を強調されました。

こうしたR Iの基本方針に基づき、井上ガバナーより「地区組織の大幅な機構改革、地区予算削減策そして地区本来の役割についての再確認」が打ち出されました。この方針を受けて当委員会も各クラブ宛に、クラブ奉仕活動についての情報提供を行うことにより支援し、またガバナーやガバナー補佐、他委員会と協力することを活動目標として下記活動をしてまいりました。

1. 地区クラブ奉仕部門担当の吉川パスト・ガバナーとクラブ奉仕、拡大・増強、情報・広報の3委員長会議を2002年6月以降、随時開催し、主として

- ① 3委員会の活動方針
- ② ガバナー、ガバナー補佐と地区委員会とのコミュニケーションの具体的方法
- ③ 3委員会合同セミナーの開催スケジュールやセミナーの内容、形式、出席対象者などの打ち合わせを行いました。

2. 2002年8月3日(土) (於：薬業年金会館) 第1回クラブ奉仕3委員会合同セミナー開催。

各クラブを主体に、「クラブ運営・財政・退会防止」の3テーマ別にバズセッション形式で行いました。将来のクラブ指導者としてのクラブ奉仕委員長(会長エレクト・副会長)が出席、

クラブ主体に具体的発言を頂き、有意義な意見交換の場となりました。(詳細は地区ホームページに)

3. 2002年11月30日(土)・12月1日(日)(於:大阪国際会議場)
- ビチャイR I 会長出席の第31回ロータリー・ゾーン研究会を見学。提言『社会の変化に対応するクラブの対応について』のもと、分科討論会『クラブ組織・会員教育・職業倫理の遵守等について』を見学させて頂きました。全国レベルでの具体的で熱心な討議内容と「ロータリアンの絆をクラブに今一度取り戻すため、クラブの組織運営を優先的に充実すべきである」とのパネリストの発言が印象的でありました。

4. 2002年12月7日(土)(於:薬業年金会館)第2回3委員会合同セミナー開催。

井上ガバナー、吉川担当パスト・ガバナー、若林ガバナー・エレクト、8名のガバナー補佐、各クラブ奉仕委員長等、108名に出席して頂き、クラブ運営上の諸問題を検討するとともに、今年度導入の地区リーダーシッププランの現状をガバナー、ガバナー補佐からご報告を頂き、各クラブの抱える問題点を幅広い観点から検討いたしました。

5. 2003年4月19日(土)、次年度のための地区協議会会長部門の資料として、若林ガバナー・エレクトと委員長名で全クラブへのアンケート調査を行いました。目的は

- ① 現在、各クラブが当面されている最大の問題
  - ② 過去1～2年間に会員数が著しく減少した主な原因
  - ③ 効果的な会員増強策
  - ④ 2003～2004年度純増見込み
  - ⑤ 地区に対する要望
- の調査であります。

この結果をもとに、クラブ間に問題点と対策について情報交換の媒介をし、その上、ガバナー、ガバナー補佐の参考資料として、分析や助言の貴重な資料としたいと考えております。

6. 規定担当につきましては、2001年の規定審議会において採択された定款・細則、R I 理事会決議等に関して、地区内のクラブからガバナー事務所に質問、照会のあった事項について、チームリーダーが直接あるいはガバナー事務所を通じて各クラブに回答しました。

また、地区内でクラブの所在地域を変更し、R I 理事会の承認を得たクラブにつき、変更内容をガバナー事務所と共同で集計し、一覧表にまとめ、ガバナー月信3月号に掲載しました。

7. クラブより定款・細則の改正に関する卓話依頼があり、チームリーダーを派遣しました。クラブ奉仕全体については、地区の現状や本年度の活動方針等について卓話やフォーラムに、更に

はガバナー補佐からの要請でクラブ協議会に参加し、クラブの懸案課題について助言させていただきました。

8. 2004年6月14日～18日、シカゴにて開催の規定審議会に、クラブの立法案提出の有無の確認をガバナー・委員長名で各クラブ宛に行いましたが、4月15日の締切日まで皆無でありました。

9. 卓話銀行についてはロータリアン講師22名、一般講師29名が登録、各クラブ宛に連絡しました。

“タイムリーな卓話であった”“興味深い卓話であった”“充分楽しめた”などの利用報告がクラブより寄せられ、大いに活用されたものと考えております。

尚、年度内に3名の一般講師の追加登録を行い、各クラブ宛連絡しました。

#### 10. 委員長出席

① 2002年10月12日(土) オユンナ・チャリティコンサート

後援：大阪本町ロータリークラブ

② 2003年4月2日(水)

第14回ガバナー杯争奪軟式野球大会表彰式・懇親会

ホスト：八尾ロータリークラブ

次年度若林ガバナー・エレクトは、本年に引き続き『クラブ主役の意識の運営に徹すること』を強調され、一層地区の組織の『簡素・簡潔・スリム化』とそのために委員会内のチーム制を廃止されます。また、クラブ間の連携をよくすることも打ち出されております。

一方、各クラブの抱える懸案の課題はクラブ奉仕部門に集中しており、私達の委員会活動の重要性を一層感じております。次年度委員会は、委員の編成を整理して全員参加型で行動計画を立て、コミュニケーションをよくし、クラブの懸案課題をよく蒐集し、分類・整理して、タイムリーに情報提供を行えるように委員会内で勉強して行きたいと本年度の反省を込めて考えております。

## 拡大・増強委員会

委員長 岩知道 寿夫 (千里)  
副委員長 伊藤 武定 (大阪東南)  
カウンセラー 長濱 晃 (大阪南西)  
委員 岡部 泰鑑 (大阪城南)  
同 多田 正司 (守口)  
同 古澤 照明 (豊中)  
同 中嶋 博信 (大阪東)

これまで会員増強は量的拡大に気をとられ、クラブ自体の充実(増強)がなおざりにされてきたのではないかとの反省に立ち、本年は「退会防止」に力点を置くこととしました。その理由は、毎年各クラブで熱心な増強が図られ、多くの新入会員が増加しているにもかかわらず、退会者が増えるために会員数が減少することにあります。

「退会防止」を重要課題として掲げる以上、ガバナーの方針にもあるように、地区からの会員増強目標は設定せず、各クラブの主体的取り組みに委ねることとしました。また拡大については、現状クラブの充実を第一義として取り組むため、特に目標を設けて拡大を進めることは控えることとしました。

地区拡大・増強委員会としての活動は、下記の通りです。

- 1) 8月31日、地区会員増強セミナーを薬業年金会館にて開催しました。当日は、クラブ会員増強委員長に参加してもらい、「退会防止」を目的とするテーマ『ロータリーの魅力とは』をめぐって参加の委員長全員がIM別のバズセッションで活発な意見交換を行いました。
- 2) 「クラブ奉仕部門合同セミナー」を3委員会による共同開催としました。これは地区協議会におけるクラブ奉仕部門での議論を継続するため、8月3日及び12月7日の2回にわたって(いずれも薬業年金会館にて)セミナーを開催しました。会員増強・退会防止をはじめ懸案のクラブ奉仕問題について、クラブ奉仕委員長の皆さんに共に学んでいただくのが目的でした。
- 3) 会員増強月間には地区内から要請のあった数クラブに出向き、卓話で増強の事例報告など、会員増強に向けた話題を提供しました。
- 4) 11月29日には大阪国際会議場にて地区会員増強委員長会議が開催され、ビチャイ・ラタクルR I会長による会員増強に対する講話を聴く機会を得ました。席上、ラタクル会長は無謀な増強がクラブを歪めることへの警鐘を鳴らし、増強にあってもロータリアン本来の姿に立ち返ることを強調されました。
- 5) 今年度は会員数の数え方ルールを各クラブに通知、徹底するよう努めました。期初の会員数を修正することなく、維持できたのは初めてのことです。全国的にも当2660地区が模範例として、

評価いただくことができました。今後もルール徹底にご協力願います。

- 6) 斉藤ガバナー補佐と協力して、2つのクラブでフォーラムに参加。会員増強の事例を具体的に解説し、増強方法などの工夫について意見交換と支援活動を実践しました。

## 情報・広報委員会

委員長 奥田 太加幸 (大阪北梅田)  
アドバイザー 新津 敬直 (大阪西)  
副委員長 山口 一儀 (大阪西南)  
IT担当  
チームリーダー 早嶋 茂 (大阪)  
委員 宮里 武司 (大阪東)  
同 佐野 忠正 (大阪南)  
同 浜田 晋 (大阪北)  
同 梅本 知秀 (大阪天満橋)

### (1) 地区クラブ奉仕部門3委員会合同セミナー

第1回 2002年8月3日(土) 9:00~11:30 葉業年金会館

テーマ: 「退会防止について」「クラブ運営について」「クラブ財政について」

参加者: クラブ奉仕部門担当の役員または委員長

主旨: 近い将来にクラブのリーダー、会長として活躍されるクラブ奉仕部門担当の役員に参加を要請して、各クラブが抱える問題点としてのテーマを示し、希望するテーマごとにグループを分けてバズセッション形式で討論してもらった。討論を通じて情報を共有し、問題解決の糸口を見つけてもらうと共に、地区内を横断的に結ぶ人間関係の構築を図った。討論の内容は後日参加者に配布した。

第2回 2002年12月7日(土) 9:00~11:30 葉業年金会館

テーマ: 「ガバナー補佐が各クラブを訪問して感じたこと」

参加者: クラブ奉仕部門担当の役員または委員長

主旨: 今年度より導入された地区リーダーシッププランによりガバナー補佐が各クラブを訪問して実際に見聞きした問題点やアイデアを、パネルディスカッションの形式で発表してもらい、ガバナー補佐、地区委員会、各クラブが連携して諸問題に取り組むことを図った。

### (2) 地区ホームページの維持管理

情報・広報活動としてロータリークラブの基本的な情報、地区組織・地区内クラブの情報を掲

載し、ガバナー月信については毎月の更新をした。また、地区委員会からの要望に応じて委員会情報を掲載した。

(3) マスコミとの懇談会

2002年9月10日(火) 12:00~13:00 リーガロイヤルホテル・アゼリア

テーマ: 「2004年国際ロータリー・国際大会開催について」

参加者: 朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、産経新聞、朝日放送、毎日放送、NHK、関西テレビ、井上暎夫ガバナー、近藤雅臣国際大会実行委員長、吉川謹司副委員長、他

内容: 在阪のマスコミ各社とガバナー、国際大会の実行委員会の各氏に集まってもらい、国際大会のPRと広報活動への協力を依頼した。

(4) 講演会への共催

2002年12月2日(月) 18:30~20:00 大阪国際会議場3F「イベントホール」

ウェーブ産経が主催する講演会に第2640地区と共催した。

テーマ: 「テロ(支援)国家への米国の対応」

講演者: アレキサンダー・アルマゾフ米国領事

参加者: ロータリー関係約170名

(5) IT化の提案

「ガバナー月信の配信・各クラブへの連絡を地区ホームページ上で行う」と題した提案書を作成して諮問委員会に提案した。

内容: 情報伝達手段としてのインターネット利用が地区内の各クラブ事務局に95%以上の普及した時点を捉えて、通信費、印刷費の削減と情報量の拡大を図った上記の提案をした。今年度内の実現は見なかったが次年度以降の検討と実施が期待される。

## 職 業 奉 仕 部 門

担当パスト・ガバナー 寺 田 和 之 (大 阪)

### 職 業 奉 仕 委 員 会

委員長	辰野元彦(大阪東)	委員	木村直樹(大阪)
副委員長	宮後浩(大阪住之江)	同	村木茂(新大阪)
ボランティア担当 チームリーダー	本田和正(大阪南)	同	前田澄雄(寝屋川)
委員	近藤浩司(大阪南)	同	近藤嘉一(大阪ユニバーサルシティー)
同	池永道彦(守口)	同	佐藤庄治(吹田)

- ① 2002年9月28日(土)に、薬業年金会館にて「クラブ職業奉仕委員長会議」を開催した。主な内容は次の通りである。
  - \*文部科学省の「心のせんせい」や大阪府・大阪市の「学校支援人材バンク」への、各クラブからの積極的な登録を依頼した。
  - \*吹田西RCからは、「職場体験」の事例紹介を頂いた。
  - \*バズセッションでは、各クラブでの具体的な取り組みについて討議・発表頂いた。今後の各クラブでの活動計画の参考になったと思う。また、井上ガバナーからは、ロータリークラブの職業奉仕の理念(I serveが基本である事)についてお話を頂いた。
- ② 全国ガバナー会では、地域での奉仕活動の一環として教育改革への取り組みが決定されたが、それに基づき、文部科学省による「心のせんせい」や、大阪府・大阪市の「学校支援人材バンク」への非常勤講師の登録依頼を行った。現時点で既に75名の登録を頂いているが、大阪では「心のせんせい」の受入はまだスタートしていないので、府・市の「学校支援人材バンク」に対し正式に非常勤講師の登録推進を行っている。また、登録者名簿を各クラブへ配布し、地元の教育委員会などへの積極的なコンタクトを依頼した。
- ③ 各クラブでの取り組みなどを把握すべく、例年どおり「クラブ職業奉仕活動に関するアンケート」を実施した。委員会で集計の上、4月の地区協議会や5月の地区大会、更には次年度の委員長会議などで発表する。
- ④ 2003年3月に実施された「第3回世界水フォーラム」に、語学ボランティアの登録を行った。
- ⑤ 職業奉仕への理解をより深めて頂くべく、本年度は副委員長・チームリーダーにより、2つのクラブの例会で職業奉仕に関する卓話を行った。

## 社会奉仕部門

担当パスト・ガバナー 熊澤忠躬(守口)

担当アドバイザー 廣瀬勘一郎(大阪西南)

### 社会奉仕委員会

委員長	古澤照男(豊中南)	委員	吉田日士光(豊中南)
副委員長	若宮邦弘(大阪天王寺)	同	高士雅次(大阪西)
委員	平岡龍人(大阪)	環境保全担当 チームリーダー	上山清治(大阪北)
同	玉城明(吹田西)	委員	中山卓三(大阪城北)
交通問題担当 チームリーダー	浦川光雄(箕面中央)	同	樋上幸夫(摂津)
委員	住井雅義(大阪住吉)	同	的場年昭(箕面)
同	辻村弘(守口)		

#### 社会奉仕チーム

##### ○クラブ社会奉仕委員長会議

2002年9月3日 於：大阪府赤十字血液センター

大阪府赤十字血液センター副所長・製剤部長 神前昌敏氏より、献血活動における輸血の意義、特殊性についてお話頂いた。

- ① 輸血を必要とする患者にとって献血由来の輸血用血液にとって代わるものはない。
- ② 献血は人の善意に支えられており、有限の資源とも言える。
- ③ 起こりうる輸血後副作用などから輸血の安全性は完全なものではない。

上記に加えて、現在血液が非常に不足しているという話を聞いて、私たちロータリアンおよびロータリークラブ会員の企業に献血活動への協力をお願いした。自分の企業に問題を持ち込んで是非に協力をしようという皆様のお陰で献血活動が実現したことを心から感謝すると共に、引き続きなお一層のご協力をお願いしたい。

#### 環境保全チーム

##### ○クラブ社会奉仕委員長会議

2002年9月3日 於：大阪府赤十字血液センター

参加者：井上ガバナー、廣瀬パスト・ガバナー、熊澤パスト・ガバナー、

若林ガバナー・エレクト、各クラブ社会奉仕委員長、地区委員他105名

地球環境関西フォーラム事務総長榊屋正氏の「交通の面からみた環境保全について」を聴講した。ビデオテープの製作。

○2002年10月1日～10月31日

豊かな環境づくり大阪府民会議、大阪府廃棄物減量化・リサイクル推進会議の要請に基づく「グリーン購入／NO!!包装キャンペーン」の実施に呼応して各クラブの会員とその企業と家庭に周知し実践を呼びかけた。

○環境研修見学会

2002年10月17日 於：ダイキン工業株式会社堺製作所

参加者：各クラブ社会奉仕委員長他92名

2002年おおさか環境賞大賞を受賞された事業者の

- ① 製品、生産活動における省エネルギー化
- ② フルオロカーボン関連対策によるオゾン層保護
- ③ 資源生産性の向上

の取り組みの現状を現地研修した。

○豊かな環境づくり大阪府民会議

2002年12月3日 於：大阪府公害審査会室

- (1) 2002年度行動計画案の審議
- (2) 2003年度府民会議事案の審議
- (3) おおさか環境賞の選考方法

○豊かな環境づくり大阪府民会議総会

2003年1月21日 於：KKRホテル大阪

- (1) 2003年度行動計画の審議
- (2) 2003年府民会議事業の審議

○おおさか環境賞の推薦

2003年2月26日

茨木東RC推薦の竹内洪氏を個人部門に、茨木東RC推薦の「ふるさと茨木連帯」を団体部門に地区から推薦した。個人・団体部門ともに、奨励賞を受賞した。

○環境への意識喚起と啓蒙のため、次の通り各クラブに配信した。

- (1) 「グリーン購入／NO!!包装キャンペーン」ポスターの配布

- (2) 大阪府民会議情報誌「環境夢ひろば」
- (3) ごみ減量化指導等の研修会の案内
- (4) 「都市の交通と環境」シンポジウムの案内

#### 交通問題チーム

当地区における交通問題、交通災害防止への取り組みは5年を経過して、本年度より社会奉仕委員会の活動として取り上げて頂き、会員の皆さまの理解を一層深め、実践的な活動の広がりを個人のレベルからクラブレベルへ、次はIMブロックレベルへ、地区全体の取り組みへと高めるとともに、定着させて行きたいと念じて活動を進めて来た。

#### 1. 地区レベルでの取り組み

- 秋の「おおさか交通ファミリーフェスティバル」への協賛参加は、辞退した。
- 財団法人 都市交通問題調査会主催の設立15周年記念シンポジウム「都市の交通と環境」(2003年3月10日～11日)に会員約20人参加出席
- クラブ社会奉仕委員長会議(2002年9月3日)での渡辺治重氏の交通被害者として体験された講演をビデオに収録。例会、地域の集いで活用頂きたい。
- 大阪府交通対策協議会主催「春の全国交通安全運動」キャンペーンへの参加  
2003年5月12日 於：大阪城公園大手門前広場  
井上ガバナーをはじめ廣瀬パスト・ガバナー、古澤地区社会奉仕委員長、地区委員、各クラブより50名余の出席を頂いた。

#### 2. IMレベルでの取り組み

交通問題への取り組みを社会奉仕委員会の活動方針、プログラムとして周知して頂いた。

#### 3. クラブ単位の活動の推進

- 地域の警察署、交通安全協会で開催されている「無事故・無違反コンテスト」への積極参加も定着してきた。
- 特定任意講習の実施も定着してきた。
- 高齢者や児童などの“交通弱者”への安全対策を今まで以上に積極的に取り組んで頂きたい。

## 青少年奉仕部門

担当パスト・ガバナー 中川章三(大阪城南)

### 新世代合同委員長会議

議長	中川章三(大阪城南)
委員	北山孝和(大阪中央)
同	石田肇(東大阪東)
同	松林寛(大阪南)
同	中一皓(枚方くずは)
同	佐藤俊一(大阪鶴見)
同	野村浩司(大阪ねざき)
同	中澤章好(大阪住吉)

従来、青少年奉仕活動を担当しているのは青少年活動委員会、ローターアクト委員会、インターアクト委員会であり、また国際奉仕部門では青少年交換委員会、それから青少年というには少し年齢が高いかも知れないが、ロータリー財団部門の研究グループ交換委員会、財団奨学金・学友委員会や米山奨学委員会もそれぞれ別個の部門で奉仕活動を活発に行ってきた。しかし、各委員会は何をしているのか？漠然とは分かっているがその詳細は知らず、お互いに連携がないに等しい状態であった。つまり今まで縦の関係はあっても、横の関係はないに等しく、横の関係が弱いために青少年の奉仕活動を十分に発揮することが出来なかったと言って良い。だから7月6日開催の合同地区委員会で述べたように、新世代合同委員長会議は各委員会の委員長を委員として一つの委員会を構成し、お互いに連絡を取り合って活動状況について話し合い、理解を深めながら青少年活動をより活性化せしめることにその目的があると考えている。

本委員会は①青少年活動委員会②ローターアクト委員会③インターアクト委員会④青少年交換委員会⑤財団奨学金・学友委員会⑥研究グループ交換委員会⑦米山奨学委員会の7委員会によって構成されており、各委員会の活動状況によっては、お互いに連絡して活動に参加することになっている。

活動状況については、それぞれの委員会の報告を参考にして頂きたい。特に著明な活動例を挙げれば青少年活動委員会で、2002年8月9日～11日に大阪淀川RCをホストとする少年少女ニコニコキャンプ、また2003年5月3日～5日に行われた大阪船場RCをホストとする春のライラの成功である。参加研修生100名以上となる、ここ数年来に勝る盛況となった。ローターアクトは2003年5月

18日に地区年次大会を、インターアクトも6月8日に年次大会を開催する予定である。但し、現在の情勢に鑑みて、それぞれ海外研修が中止になったことは残念である。青少年活動とローターアクト活動及び青少年交換がこの「春のライラ」でお互いに助けあって活動して頂いたことは、これらの趣旨を理解して頂いたものと感謝している。研究グループ交換も第1050地区との交換が無事成功裡に終わっている。

2003年1月15日に第1回委員長会議を開催し、すでに実施されたプロジェクトについてそれぞれの委員長より報告いただいた。また第2回の合同委員長会議は後半の6月中旬に開催し、各委員会の活動報告を聞いて、横割りの連絡・活動をどうしたら良いのか、またどうすべきかを考えてみたいと思っている。

## 青少年活動委員会

委員長	北山孝和 (大阪中央)	委員	渡邊哲也 (交野)
副委員長	泉博朗 (大阪住吉)	同	津本清次 (大阪淀川)
委員	吉田賢二 (大阪住之江)	同	野原嗣久 (豊中千里)
同	氏野隆司 (東大阪西)	同	吉岡康雄 (大阪西北)
同	片岡亥一郎 (大阪堂島)	同	久保義誓 (茨木)
同	西尾隆善 (大阪船場)		

### (1) 少年少女ニコニコキャンプ

日時 2002年8月9日(金)～11日(日)

場所 大阪府立総合青少年野外活動センター (能勢)

ホストクラブ 大阪淀川ロータリークラブ

参加少年少女 103名 (登録108名、当日欠席5名)

男子55名、女子48名

参加ロータリアン 51名 (登録399名、登録47クラブ)

青少年リーダー 上級ライラ修了生、ローターアクター (35名)

テーマ 自然の中で新しい友達と遊ぼう

児童たちが班旗を作成したり、野外での食事の準備、調理、夕食、後かたづけをし、またキャンプファイヤー、共同作業による工作、餅つき、花火大会をしたり、午前4時に起床して皆で山登りが出来たことは大変意義があったと思います。

また、ローターアクター、ライラ修了生も児童たちのリーダーとして指導力養成に大変役立ったと思います。

今年度は初めてホストクラブをIM単位で援助する方針が井上ガバナーより示され、ホストク

クラブの負担が軽減され大変活動しやすくなりました。

## (2) 春のライラ（初級）

日 時 2003年5月3日(土)～5日(月)

場 所 大阪府立青少年海洋センター（淡輪）

ホストクラブ 大阪船場ロータリークラブ

参加青少年 102名

参加ロータリアン 90名（登録403名、登録62クラブ）

テ ー マ 人に優しく、地球に優しく。慈愛の苗木を育てよう

バヌアツでの「歯科療法士活動と青少年育成」の基調講演で青少年に感動をロータリアンに誇りを与えるすばらしいお話、自然保護活動の講演、テーマに沿っての活動後のグループ発表では、青少年に未来を託せると感じた3日間でした。

2日目のバーベキュー大会、キャンプファイヤーは第2640地区と合同で行い、ロータリアン、青少年と地区を越えた親睦活動でした。

## (3) クラブ青少年活動委員会正副委員長会議

日 時 2003年5月3日(土) 13:00～

場 所 大阪府立青少年海洋センター（淡輪）

参加クラブ 62クラブ

参加ロータリアン 71名

協議事項 各クラブの活動報告、ライラ参加見学

井上ガバナー、中川パスト・ガバナーのご出席でライラ見学、各クラブの活動状況発表等、連休の初日にも関わらず活発な報告が行われました。

## ローターアクト委員会

委員長	石田 肇（東大阪東）	委員	西口 宗宏（大阪中央）
副委員長	磯田 郁子（大阪東淀）	同	渡部 富士雄（大阪住吉）
同	高橋 敏朗（守口）	同	高良 尚志（大阪天満橋）
委員	岩津 陽介（大阪御堂筋）	同	齋城 正之（豊中-大阪国際空港）
同	大森 保子（茨木西）	同	高谷 晋介（大阪西南）

「One」（人生に何か一つ目標を持って、一つになろう、もっと一人一人の個性を出そう）を、今年度地区ターゲットとして掲げ、地区と各クラブの連携・協力関係を密にし、ローターアクト活

動の原点を見つめなおすことを主眼に置き、提唱ロータリークラブの意識を高め、会員の増強を図るアドバイスを強力に推進した一年でした。

2002年9月8日の「全国統一アクトの日」にローターアクトの活動を一般の方々に理解をしていただき、会員増強が出来るように、缶ペンバッジの製作とうちわの製作をいたしました。そして初めての試みとして大阪駅周辺の街頭にて各会員が自ら作ったバッジとうちわを配りました。ガバナー事務所の連絡先をいれておりましたので、数件の問い合わせがありました。残念ながら新規会員の獲得には至りませんでした。ロータリーとローターアクト活動のPRになりましたので、今後も続けていきたいと思っております。

2002年11月30日～12月1日にかけて行いました、「地区国内研修」は第2610地区のご好意ですばらしいものになりました。広島平和公園にて、原爆資料館の見学をした後、原爆の被爆者の慰霊碑に参加者全員で製作した千羽鶴を奉納し、その後第2610地区の皆様が継続的に続けられている、平和学習例会に参加して戦争の悲惨さ、核兵器の恐ろしさを勉強し、その後戦争についてディスカッションをいたしました。今回の訪問を機会に友情を深めることができ、その後も継続的に交流が続いております。

年2回行っている「献血活動」も順調で、多くの方から献血をいただきました。また、各クラブも独自の献血活動を活発にしており、赤十字血液センターとはより親密な情報交換を行い、より充実した活動が出来ました。

2003年5月17日～18日に開催した、「地区年次大会」は当地区始まって以来の2日間の開催で、17日には交流会（前夜祭的なもの）を、18日の本大会はフェリー・サンフラワーを貸し切りにして、大阪湾をクルーズしながらの大会になりました。乗船すると途中で下船することが出来ないにもかかわらず地区内外のロータリアン・ローターアクト多数の出席をいただき、盛大で内容の充実したものになりました。

2002年7月13日の第1回ローターアクト提唱クラブ正副委員長会議では各クラブの委員長から本年度の活動計画を発表していただき、特に増強に対する取り組みを発表していただきました。

2003年3月15日の第2回ローターアクト提唱クラブ正副委員長会議では次年度の委員長にも出席していただき、今期から来期にかけての引き継ぎ、また第1回で発表していただいた増強に関する報告等をバズセッション方式にて協議していただきました。

2003年5月29日～6月2日の5日間で予定しておりました、ロータリーの国際大会への出席を含むオーストラリア・ブリスベンへの「地区海外研修」は、イラク戦争・新型肺炎（SARS）の影響でやむなく中止いたしました。

ローターアクトの活動はロータリアンのご理解とご支援なしでは成り立ちません。今後ともご協力よろしくお願いいたします。

## インターアクト委員会

委員長 松 林 寛 (大阪南)  
副委員長 梶 川 靖 夫 (大 東)  
委 員 片 上 淑 子 (大阪住吉)  
同 仙 田 良 行 (大阪城南)  
同 畑 中 裕 昭 (八 尾)  
同 吉 中 春 美 (大阪南西)

休部・廃部が相次ぎ、当地区のインターアクトクラブが6クラブと減少していましたが、大阪南西ロータリークラブが新たにインターアクトクラブを提唱され、昨年11月5日付けにて四天王寺羽曳丘高校・中学校インターアクトクラブが誕生しました。従って、当地区のインターアクトクラブは7クラブとなりました。

### 年間活動報告

1. 海外研修 提唱及び担当校：大東RCと大阪桐蔭中学・高等学校 I A C  
期 間：2002年8月3日(土)～8月7日(水) 4泊5日  
訪 問 先：シンガポール、マレーシア  
参 加 者：インターアクター30人、顧問8人、ロータリアン4人  
計42人  
内 容：第3310地区 I A Cとの交流、児童養護施設など福祉施設訪問と交流など
2. 年次大会 提唱及び担当校：大阪南RCと清風学園 I A C  
期 日：2003年6月8日(日)  
会 場：大阪市立弁天町市民学習センター、みなとYMCA  
内 容：(1) 講 演 (講師：関西生命線代表 伊藤みどり氏)  
テーマ お弁当を通じての国際理解  
(2) 中国人ゲストと餃子づくりにチャレンジ  
(3) アイスブレーキングで楽しい交流
3. S C R U M No.28の発行  
提唱及び担当校：大阪南RCと四天王寺高等学校・中学校 I A C  
内 容：海外研修及び各クラブの活動報告
4. 地区委員会、クラブ正副委員長会議、顧問会議などを適時開催しました。

## 国際奉仕部門

担当パスト・ガバナー 柏木 尚(豊 中)

### 国際奉仕委員会

委員長 八木 頼 夫 (大 阪)	委 員 西村 貞 一 (大 阪 東)
副委員長 毛利 哲 三 (大 阪 西 南)	同 中 西 憲 治 (大 阪 北)
国際大会参加推進担当チームリーダー 笹井 敏 之 (大 阪 フレンド)	同 加 登 敏 夫 (豊 中)
委 員 吉 川 邦 英 (大 阪)	同 岡 田 富 二 (大 阪 船 場)
同 武 田 太 郎 (大 阪 南)	同 中 西 和 也 (千 里 メイ プ ル)

新設の国際奉仕委員会の主任務は ON TO CONVENTION と心得て、先ず5月のブリスベーン大会への参加を地区内全クラブに呼びかけました。

2月末日現在 会員148名、家族74名、計222名が参加予定になっています。(3月10日調べ)

前年度国際交流・平和委員会の調査された通り、友好・姉妹クラブについては数多くのクラブ(86クラブ中68クラブ)が活発に提携し奉仕活動を行っておられます。

### 世界社会奉仕委員会

委員長 長 澤 利 治 (茨 木)	委 員 芦 邊 康 徳 (大 阪 心 斎 橋)
アドバイザー 瀧 田 浩 彦 (東 大 阪 中 央)	同 小 林 哲 (吹 田 西)
副委員長 植 村 宏 一 郎 (大 阪 平 野)	同 三 村 恵 造 (大 阪 西 北)
委 員 有 江 健 (東 大 阪 中 央)	同 若 林 紀 男 (大 阪 東)
同 園 侯 一 (大 阪 梅 田)	

1. 2002年7月13日(土)、第1回クラブ世界社会奉仕委員長会議を開催し、R Iの方針に基づき、クラブ主体の運営(ボトムアップ)を行ってもらうためにも、全クラブがWCS活動をより積極的に行っていただけるよう地区委員会が協力する旨を申し上げた。また、補助金制度も有効に活用するように啓蒙した。

2. 地区WCS委員会は基本的に毎月第3水曜日午後3時から5時まで、ガバナー事務所にて

開催し、財団法人道的補助金委員会とは年3回合同委員会を持った。(臨時委員会1回)

3. 2002年9月27日(金)、ガバナー補佐会議に出席し、今年度よりWCS活動の現状と各クラブのWCS活動の取り組み表をIM単位で作成した意図と、各クラブの意見を地区WCS委員会にもフィードバックしていただきたい旨の報告を行った。

4. 2002年11月24日(日)～28日(木)までカンボジアにて現地視察を行った。地区WCS基金に入金のクラブについては、カンボジアでの支援プロジェクトに対し拠出金額も含め報告した。

5. 2003年3月29日(土)、第2回クラブ世界社会奉仕委員長会議を開催した。今年一年、各クラブが積極的にWCS活動を行っていただいた結果、86クラブの内19クラブを残し、単独又は数クラブでWCS活動の取り組みをしていただいた旨の報告をした。

本年度、次年度の各クラブ国際奉仕/WCS委員長にも参加いただいた中、財団法人道的補助金委員会より補助金の新しい仕組み、利用方法の話がうかがった。また、国際奉仕委員会よりブリスベーン国際大会への参加と2004年国際大会のPRがあった。

## 青少年交換委員会

委員長 近藤 眞道 (高槻西)

委員 須崎 洋一 (東大阪東)

副委員長 林 輝久 (大阪東)

同 岡田 俊作 (大阪本町)

同 植田 豊實 (箕面中央)

同 徳岡 昭七郎 (大阪天満橋)

ローテックス担当チームリーダー  
中 一 皓 (枚方くずは)

同 武市 智寿 (大阪鶴見)

委員 土井 晶三 (高槻西)

同 畑 延次 (東大阪中央)

本年度は1年間の長期派遣学生は16名、長期受け入れ学生は15名の合計31名の相互交換を行いました。当地区の交換の特徴は、概して交換相手が米国・カナダ・オーストラリア等の英語圏が主流を占める日本の現状の中で、英語圏以外との交換が多い点にあります。メキシコ、ブラジルをはじめ、フランス、フィンランド、ノルウェー、ベルギー、ドイツ、ポーランド、ハンガリー、チェコ、インド等13カ国に及んでいます。

参加クラブも確実に推移しており、毎年新しく当該プログラムに参加するクラブが1～2クラブあります。当該プログラムでは、地区委員会が半ば強制的に来日学生(来日留学生)をクラブに割り当ててのではなく、あくまで、クラブが主体となって、クラブの自主性のもとで参加してもらうことを基本にしています。地区が留学生引き受けをクラブにお願いすることによって、一時的にはより多くの交換実績を上げることは可能でしょうが、長期的に見たとき、最も重要なことはこの

プログラムに参加したクラブが、実感をもって青少年交換をよりよく理解してもらうことであり、強制的に地区より押し付けられたとの感がもしクラブに残るのであれば、結果的にこのプログラムの発展には繋がらない、との考えに立っています。ロータリー活動はクラブが主体であり、地区はそのサポートをする立場であります。いわゆる“トップ・ダウン”ではなく“ボトム・アップ”を基本としています。おかげさまで、ここ数年、当該プログラムに対して飛躍的な発展よりも、草の根を基としてゆっくりと確実に輪が広がりつつある手応えを感じることができつつあります。

特に、数年前より懸案になっていました元派遣学生のグループ、ROTEXの全国ネットが現実動き出しています。関西4地区では「ROTEX4地区連合」としてすでに成果をあげるにいたっていますが、去る5月に青森でビチャイ・ラタクルRI会長の出席を仰いで行われた、全国青少年交換研究会でROTEXの全国ネットが「第1回全国ROTEX会議」として成功裏に開催されました。2004年の国際大会では大阪で第2回のROTEX全国大会が企画されています。これらの全国ネットは過去数年間、当2660地区青少年交換委員会が中心となって企画してきたものです。

さらに来年度のRI国際大会では全世界の青少年交換プログラム関係者が一同に会する「青少年交換役員会議」がRI公式行事として行われます。その公式行事のホストとして、当地区が中心となり関西4地区青少年交換役員が中心となって実行委員会が組織され、現在活動を始めています。

## ロータリー財団部門

担当パスト・ガバナー 中野董夫(大阪阪南)

### ロータリー財団統括会議

議長 居相英機(八尾)  
委員 山本公平(大阪北)  
同 佐藤俊一(大阪鶴見)  
同 中西藤和(大阪梅田)  
同 野村浩司(大阪そねざき)

1. 本年、第2660地区ロータリー財団部門は、委員会活動の効率化を図ると共に、経費の削減をはかる新方針のもとに委員会組織の変更を行い、財団所属の7つの小委員会が下記の4つに再編成されたが、活動は従来の内容を効率的に継承した。

- ・財団情報・増進委員会(財団情報委員会と財団増進委員会が合併)
- ・財団奨学金・学友委員会(財団国際親善奨学生委員会と財団学友委員会が合併)
- ・財団人道的補助金委員会(財団人道的援助委員会とポリオ・プラス委員会が合併)
- ・研究グループ交換委員会(変わらず)

2. 重点課題として「ポリオ撲滅キャンペーン」への取り組み

ポリオはウィルスによる感染性の高い疾患で、口から体内に入り、神経を侵し、手足の麻痺を起こす5歳未満の子供たちが罹りやすい病気である。

年初の地区協議会会長部門において“ポリオ撲滅活動完結に向けてのお願い”の文書にて、「今こそポリオを征服しよう」と協力を呼びかけ、1人当たり最低70ドルの寄付をお願いした。期首の会員数4,646名より325,220ドルを目標額と定めたところ、ポリオ撲滅に対する理解と絶大な協力が得られ、DDFを加えると年度末の集計を待たずして目標額を大きく達成した。感謝の念をもって報告したい。全世界からポリオ・ウィルスが完全に根絶され、ポリオから開放された世界を祝うことができるならば、ロータリー100年祭の中で最も歴史的行事となるであろう。

3. 2002～2003年度は17名の奨学生を10ヶ国に派遣し、自分の勉学に励むと共に国際親善大使として役割を果してくれている。2003～2004年度の奨学生候補は18名で夏以降順次海外に出発する予定。問題点として、自分の希望する大学等に行くことが出来なかったり、仕事の関係で留学

を見送らなければならないケースもあり、すべての候補生が所期の目的を果せるとは限らない現実がある。

4. 研究グループ交換は参加者の人生に非常に大きな影響を及ぼしている。本年は、英国1050地区（マンチェスターとその近郊）とのグループ交換が行われた。

#### 5. その他活動報告

(1) 地区ロータリー財団セミナーを10月5日に開催し、各クラブ会長、財団委員長に財団の歴史、組織、各プログラム、WF・DDFの補助金の申請等に至る財団の全体像を説明し、財団活動に対する理解を深めた。

(2) クラブロータリー財団委員長会議を12月14日薬業年金会館にて開催。財団部門4委員会活動の周知徹底と寄付の増進をお願いし、理解を図った。

(3) 11月のロータリー財団月間は18クラブからの卓話を議長、財団学友（元国際親善奨学生やGSEメンバー）等が手分けして担当し、財団活動の理解を深めた。

(4) ロータリー財団地域セミナーは8月と11月、ポリオ撲滅キャンペーン、エリアコーディネーターセミナーは10月に参加した。

(5) 2001～2002年度においてロータリー財団に対し特に貢献のあった個人、クラブを地区大会にて表彰。

・ロータリー財団功労表彰 寺田直前ガバナー

・ロータリー財団地区特別奉仕賞（1万ドル寄付） 菅生R I理事

若林ガバナー・エレクト

・ロータリー財団地区奉仕賞 2001～2002年度 寄付累計6,000ドル以上達成者5名

・ロータリー財団寄付優秀クラブ（会員一人あたりの年間寄付上位3クラブ）

大阪城東RC・東大阪RC・大阪そねぎRC

(6) その他

## 財団情報・増進委員会

委員長 山本公平（大阪北）

委員 井川孝三（八尾）

副委員長 金田勝弘（大阪城南）

同 松原貞一（大阪柏原）

年次寄付担当チームリーダー

西森喜一（大阪難波）

同 岸本健之亮（大阪北梅田）

恒久基金・大口寄付担当チームリーダー

今堀幸（高槻）

当委員会は、財団の各委員会との連携を密にしながら、各クラブのロータリー財団委員長を通じ

て財団の情報を提供し、会員の皆様にロータリー財団活動の理解と財団への寄付の増進を推進してきました。本年度は財団の変更点が多くあり、且つポリオ撲滅キャンペーンの最終募金も重なりましたので、当地区会員の皆様には財団活動への御理解と御協力に大変感謝致しております。

1) 情報・増進委員会 年4回

2) ロータリー財団セミナー 2002年10月5日(土) 於：大阪YMCA

- ・各クラブより会長、財団委員長、そして財団学友(PSC)、GSEメンバーが出席
- ・ポリオ撲滅キャンペーンの説明・GSEの報告他

3) 11月 ロータリー財団月間

17クラブよりの要請でPSC会員、GSEメンバー等が留学体験や職業研修体験を主なる話題として卓話をしました。

4) クラブロータリー財団委員長会議 2002年12月14日(土) 於：薬業年金会館

- ・本年度大幅に変更になった財団活動の変更点の説明、奨学生の募集報告
- ・ポリオ募金の状況説明とそれに対する強いお願い
- ・財団への寄付増進のお願い

5) IMの活用について

従来は3～5分程度あった財団報告の機会が少なくなっており、今後は活用方法の検討が必要となっています。

6) 地区募金目標(今年度)

年次寄付の地区目標 68万ドル

年次寄付の1人当たり 145ドル

ベネファクター各クラブ 1名以上

大口寄付 1名

2003年4月現在

年次寄付額 465,060.36ドル 達成率 68.3%

1人あたり 100.10ドル(平均)

前年度は年次寄付額60万ドルで89%の達成でしたが、本年度は2003年4月現在からの推定で50万ドルと考えられます。(会員減・ポリオ募金と重なった為)

## 財団奨学金・学友委員会

委員長 佐藤 俊一 (大阪鶴見)	委員 岡田 東一 (大阪)
副委員長 溝畑 正信 (東大阪東)	同 岩本 洋子 (大阪そねぎ)
財団学友担当チームリーダー 梅崎 道夫 (大阪城南)	同 坂井 孝彦 (東大阪)
委員 寺田 秀興 (東大阪東)	同 島井 宏子 (大阪北梅田)
同 佐藤 秀雄 (茨木西)	同 栢本 淑子 (吹田江坂)
同 榊原 春枝 (大阪柏原)	

当委員会は昨年までの財団国際親善奨学生委員会と財団学友委員会とが合併してできたもので、その活動は多岐にわたっている。

残念ながら、財団への寄付金の減少によるDDFの配分額減少などにより、派遣学生数は年々低下の一途をたどっている。本年度は往年の半数にも満たない数になり、申請者にとっても厳しい状況になっている。

以下に本年度の活動状況をしるす。

1. 2002～2003年度派遣奨学生17名（内7名は2年間）は現在10ヵ国に散らばって専門分野の勉学と国際親善に励んでいる。
2. 2003～2004年度奨学生候補18名が留学準備中。  
2002年10月12日 第1回オリエンテーション  
講師 戸田孝パスト・ガバナー  
2003年3月15日 第2回オリエンテーション  
NHK大阪放送局、大阪歴史博物館見学  
文化講話講師 大阪歴史博物館館長 脇田修先生（大阪RC）  
2003年6月28日 第3回オリエンテーション（予定）
3. その他委員会開催8回、奨学生帰国報告会、来日文化研修生歓迎会
4. 2004～2005年度の奨学生の募集と選考  
現在40名の申請者より2次試験を行って13名の国際親善奨学生候補を選考中。  
またロータリー世界平和奨学生の募集もあわせて行っており、地区より優秀な平和奨学生候補を推薦できる事を期待している。
5. 来日文化研修生の受け入れ。本年度は最終的に2名にとどまった。（3ヵ月）

Marris Ruth Ann (ニュージーランド)

何 佳 芳 (台湾)

6. 大学教員のための補助金。小山田英治氏をインドネシアに派遣。

#### 7. P S C 活動

- ・奨学生の歓送会の開催、忘年会などによる親睦と交流会開催
- ・電子メールのメーリングリストによる奨学生に対する留学の支援
- ・地区財団セミナーでのPR、財団月間にクラブでの卓話、地区大会でのパネル作製
- ・「P S C だより」の発行
- ・P S C 総会、P S C 例会の開催

### 研究グループ交換委員会

委員長 野村 浩 司 (大阪そねざき)

コーディネーター 松岡 茂 雄 (大阪鶴見)

委員 加藤 隆 (八尾)

同 岩城 邦 廣 (摂津)

同 梶 元 英 (大阪うつぼ)

同 野村 正 勝 (箕面中央)

委員 後藤 二 郎 (大阪北)

同 田中 潤 治 (大阪西北)

同 吉田 弘 (枚方)

同 松井 隆 雄 (大阪天王寺)

同 若林 紀 男 (大阪東)

本年度は英国マンチェスターとその近郊第1050地区と研究グループ交換を実施しました。団員は25～40歳の男女、双方の滞在期間は約4週間としました。

本年度よりロータリー財団の規定に変更があり、G S E チームの交換は隔年となりましたが、当地区のDDF11,000ドルを使用して同年度内の交換を行いました。

尚、2003～2004年度は大阪にて国際大会が開催されるためG S E 交換は実施しません。

#### 派 遣

当地区からの派遣チーム5名は、2002年9月13日(金)に関西国際空港よりエールフランスにて英国マンチェスターへと出発しました。

チームは4週間の間、英国マンチェスターとその近郊第1050地区にて研修と国際親善、文化交流を十分に行いました。帰国報告書は地区内各クラブ、関係者などに配布しました。また、その内容はG S E ホームページ (<http://www.gse2660.com>) にも掲載しています。

帰国は10月17日(木)で、帰国前の4日間はメンバーの希望によりロンドンに実費にて滞在しまし

た。見送りおよび出迎えには、早朝にもかかわらず井上ガバナー、野村GSE委員長、地区GSE委員ほか多くの関係者が空港へ来ていただきました。

#### 第2660地区チームメンバー

団 長	中西 和也	千里メイプルRC会員	(株)チックスココーポレーション相談役
団 員	太呉まどか	枚方RC推薦	(医)亀廣記念医学会 関西記念病院 栄養士
	佐野 友美	大阪ちゃやまちRC推薦	大阪市経済局企画部庶務課 事務職員
	小池 重一	大阪うつぼRC推薦	大阪府土木部道路環境課 主査
	岡田 清重	大阪心斎橋RC推薦	大阪市消防局 福島消防署隊員

#### 受 入

2003年3月14日(金)、英国マンチェスターとその近郊第1050地区からのチーム団長・団員がルフトハンザドイツ航空にて関西国際空港へ元気に到着。井上ガバナー、野村地区GSE委員長、地区GSE委員、受入実行委員長クラブ、ホストファミリーが出迎えました。チームメンバーは全員が初来日だったので、大変興奮しておられました。

チームメンバーは到着時の航空機での長い旅の疲れを取るためと毎週末のメンバー同士の会合のためにホテルニューオータニ大阪に宿泊し、それ以外の日は1人1家庭1週間を原則として計4家庭にホームステイをしました。

研修は、それぞれの専門職業に合った研修日を設けました。また、研修先の事業所がある大阪、関西および日本を理解するための一般プログラムでは京都・奈良・広島を訪れました。特に広島は大変印象深く、チーム全員が感動したようです。

それに加えて日本古来の文化、スポーツを知るために大相撲大阪場所を観戦しました。過去に何度か英国巡業があったせいか見る前から興味を持っており、全員が強烈的な印象を受けて大変素晴らしいとの感想を聞く事ができました。

3月16日(日)には井上ガバナー、中野部門担当パスト・ガバナー、中川パスト・ガバナー、若林ガバナー・エレクト、野村地区GSE委員長、地区GSE委員、受入実行委員長・副委員長クラブ、ホストファミリーの皆さん、GSEアルムニ会の代表など135名もの出席を頂き、素晴らしい歓迎晩餐会を開催することが出来ました。出席者全員が楽しい時間を過ごし、心からの歓迎が出来たことに深く感謝いたします。

4月9日に開催したフェアウェルパーティーは、GSEアルムニ会のメンバーも参加して和気藹々とした雰囲気で行われました。パワーポイントを使ってのプレゼンテーションは、チームの4週間の様子が大変楽しく効果的にまとめられており、約100名の参加ロータリアンも楽しむ事ができました。ガバナー、ガバナー・エレクト、ガバナー・ノミニーが揃って参加されたのは当地区GSE始まって以来の事なのではないかと思えます。

今回の受入は、2002～2003年度実行委員会が各週のプログラムを綿密に計画し、地区GSE委員

会が調整を行って素晴らしい研究グループ交換要領を作成、第1050地区チームのお世話をいたしました。

4週間の研修を無事に終え、多くの日本文化に触れて国際交流をし、たくさんの友人を作ったチームメンバーは4月11日(金)思い出を胸に関西国際空港より英国マンチェスターへと旅立ちました。当日は早朝にもかかわらず、井上ガバナー、野村地区GSE委員長、地区GSE委員、受入実行クラブ、ホストファミリーなど多くの方々で見送る事ができました。

実行委員長・副委員長クラブおよび派遣・受入に携わってくださったロータリアン、ご家族の皆様にご感謝いたします。

### 第1050地区チームメンバー

団 長	Jacqueline(Jackie)Berry ジャクリーン・ベリー	マンチェスター・エクスチェンジRC会員 通称：ジャッキー	薬理学者
団 員	Nicola Eagleton ニコラ・イーグルトン	マンチェスター・ブレックファーストRC推薦	教育マネージャー
	Andrew Ennis アンドリュー・エニス	ノースウィッチ・ヴェイル・ロイヤルRC推薦	看護師
	Baljit(Bally)Kaur バルジット・カウアー	マンチェスター・エクスチェンジRC推薦 通称：バリ	アストラ・ゼネカ社 契約部長
	Paul Uncles ポール・アンクルズ	ストックポート・ランプライターRC推薦	マンチェスター大学学生課 学生収容施設割当担当

### 第1050地区メンバー受入 IMブロック別ホストクラブ

	担当 (IM)	委員長クラブ	副委員長クラブ
第 1 週	3・4組	八尾東RC	枚方RC
第 2 週	1・2組	池田くれはRC	茨木RC
第 3 週	5・6組	大阪西北RC	大阪鶴見RC
第 4 週	7・8組	大阪心斎橋RC	大阪城南RC

\*2004～2005年度は輪番制により副委員長クラブが委員長クラブになります。

○2003年1月25日(土)GSEアルムニ会(GSEのOB・OG会)の創立総会を開催しました。

## 財団法人道的補助金委員会

委員長	中西藤和	(大阪梅田)
副委員長	増本猛	(茨木東)
	ポリオ・プラス担当チームリーダー	
	岡本健治	(大阪東南)
委員	大谷透	(大阪西南)
同	白方誠彌	(大阪淀川)
同	津田宏	(大阪梅田東)
同	福家宏	(八尾中央)
同	Valentine Morozoff	(大阪)

1. 委員会は下記の通り6回開催、内3回は地区WCS委員会との合同委員会。  
7月24日、9月25日(WCSと合同)、12月4日、1月22日(WCSと合同新年懇親会)、4月2日、6月18日(WCSと合同)
2. 本年度のシェア・システムによる第2660地区のDDFの内、人道的分野に割り当てられた金額は\$149,000で、4月30日現在の使用状況は下記の通りです。

●ポリオ撲滅キャンペーン募金		\$ 100,000
●世界社会奉仕助成金 (Discovery Grants)		
バングラディッシュ・ラジシャヒ (地区財団法人道、大阪淀川RC)	\$	4,000
カンボジア・シエムリアップ (地区WCS)	\$	5,000
●ヘルピング・グラント (Helping Grants)		
東ティモールの学校 (大阪そねざきRC)	\$	1,000
●地域社会援助プログラム (CAP)		
情緒障害児治療施設 (大阪中央RC)	\$	1,858
精神障害者施設 (大阪梅田東RC)	\$	1,000
点字図書館に記念誌 (豊中千里RC)	\$	3,333
●マッチング・グラント (Matching Grants)		
タイ・クロイトンのスポーツ施設 (豊中RC)	\$	5,000
寝屋川の知的障害者施設 (大阪西南RC)	\$	1,667
トルコ・アンカラの産婦人科病院 (大阪天満橋RC)	\$	7,315
タイの先天性心臓病児童救命 (大阪なにわRC)	\$	4,000
インドネシア・ジョクジャカルタの識字率向上 プロジェクト (茨木RC・高槻RC)	\$	5,000
バングラディッシュ・ラジシャヒの乳房断層検査装置 (大阪淀川RC・大阪東淀RC)	\$	11,000

〈次年度審査〉

タイ・チェンライの眼鏡寄贈（茨木西RC） \$ 2,000

3. 地区財団法人道と大阪淀川RCは、バングラディッシュ・ラジシャヒのキャンサーシェルターにおける乳房断層検査装置のマッチング・グラントの可能性を探るため、世界社会奉仕助成金（Discovery Grant）の援助を得て2月16日～21日にバングラディッシュ・ラジシャヒを訪問した。

4. ポリオ撲滅募金キャンペーン報告（4月30日現在）

地区内クラブよりの募金額 \$ 244,972.1

DDFよりの募金額 \$ 100,000

---

合 計 \$ 344,972.1

5. 2003年5月9日～10日の地区大会におけるポリオ撲滅募金活動にて69,556円を寄付頂き、日本事務局募金口座に送金した。

# 米 山 奨 学 部 門

担当パスト・ガバナー 近 藤 雅 臣 (千 里)

## 米 山 奨 学 委 員 会

委員長 中 澤 章 好 (大阪住吉)  
副委員長 山 本 和 雄 (大阪なにわ)  
米山増進  
チームリーダー 小 竹 靖 二 (大阪中之島)  
米山学友  
チームリーダー 北 川 哲 (大阪南)  
委 員 池 原 保 三 (大阪イブニング)  
同 平 田 啓 治 郎 (大阪西南)  
同 山 本 喬 一 (大阪天満橋)  
同 長 谷 川 暉 郎 (高槻東)

### (1) 寄付金額 (2002年7月～2003年3月)

- |               |                |
|---------------|----------------|
| ① 全国寄付合計      | 1,308,539,366円 |
| 会員一人当たり平均     | 11,042円        |
| ② 第2660地区寄付合計 | 76,886,180円    |
| 会員一人当たり平均     | 16,685円        |

### (2) 2002学年度奨学生数

Y奨学生	44名
CY奨学生	3名
SY-S奨学生	2名
計	49名

### (3) 選考委員会

専門委員	藤井 克彦 (千里)	野村 正勝 (箕面中央)	松本 圭史 (大阪)
	山本研二郎 (大阪阪南)	脇田 修 (大阪)	岩本 洋子 (大阪そねざき)
一般委員	井上 暎夫 (千里)	若林 紀男 (大阪東)	近藤 雅臣 (千里)
	中澤 章好 (大阪住吉)	山本 和雄 (大阪なにわ)	小竹 靖二 (大阪中之島)
	北川 哲 (大阪南)		

(4) 選考日程

2002年11月28日	書類選考	於：ガバナー事務所
12月2日	米山選考委員会	於：ガバナー事務所
2003年1月19日	奨学生試験面接	於：大阪YMCA
2月12日	最終選考会議	於：ガバナー事務所

(5) 地区行事・委員会等

2002年5月27日	2002学年度新規奨学生オリエンテーション及び懇親会	於：新阪急ホテル
6月15日	全国米山委員長会議	於：高輪プリンスホテル
9月18日	地区委員会	於：ガバナー事務所
12月11日	地区委員会	於：ガバナー事務所
10月1日～31日	米山月間	
10月6日	米山奨学生レクリエーション	於：宝塚歌劇
2003年2月23日	米山奨学生終了者歓送会	於：大成閣
5月20日	2003学年度新規奨学生オリエンテーション及び カウンセラーと奨学生懇談会	於：ヴィアール大阪
6月18日	新旧合同地区委員会	

# 地 区 大 会

委員長 近藤 雅 臣 (千 里)  
幹 事 川 瀬 甲子雄 (千 里)  
プログラム  
委員長 岩知道 寿 夫 (千 里)

2002～2003年度地区大会は5月9日(金)、10日(土)に大阪国際会議場並びにリーガロイヤルホテルにて開催いたしました。

京都RCの千玄室氏をRI会長代理にお迎えし、14地区のガバナー及びそのご家族をはじめとした来賓、新世代合同会議各代表、地区内外からの会員・ご家族など合わせて4,755名の登録をいただき、盛況裡に終了することができました。

本地区大会は『新世代に引き継ぐ奉仕の理想』をテーマとし、記念シンポジウムにて追求いたしました。また2005年に100周年を迎えるロータリーを考える為、ガバナー補佐座談会は「変えたいロータリー」をテーマとし、部門別懇談会では「変えてはならないロータリー」をテーマとして次なる世代に引き継ぐロータリアンのあり方を追求しました。

尚、今大会の運営は千里RCをホストクラブとして、吹田RC、吹田西RC、吹田江坂RC、千里メイプルRCをコ・ホストクラブとして実行いたしました。

## 大会第1日

ロータリーを検証することによって大会テーマにつなげたいと、ガバナー補佐座談会において「変えたいロータリー」、部門別懇談会においては「変えてはならないロータリー」をテーマとしました。

試みとして第1日目は、出席義務者が務めをはたすべき日であることの徹底化を図りました。週日午後を考慮して、開会時間を例年より30分繰り下げたせいか、メインホールの出席は好成績でしたが、部門別は例年並で無断欠席は20%に及び徹底化には至りませんでした。

新たな試みとして、今年度当地区に誕生したガバナー補佐の座談会を開催し、記録の代わりに、外部ジャーナリストに感想記を依頼しました。

部門別懇談会では、IMの組ごとに100字メッセージづくりのグループ・ワーク、そして発表会と新機軸を打ち出しました。これは、聴く側で終始するのを避けるためと、僅かでも読んでみたくなる記録誌を目指したからです。

問題点を2点。①部門別は各クラブ7名が出席義務者ですが、事前登録2名だけのクラブがあっ

たこと。②フレッシュメンバー部門は、ガバナーの要望により設けましたが、86RC中事前登録67RC、当日の出席51RC。これが現在のロータリーなのででしょうか。

### 家族のつどい

オペラ歌手、栢本淑子先生（吹田江坂RC）による「歌の国イタリアの名歌、日本の懐かしい歌」コンサートを開催しました。

RI会長代理はじめ180余名のご参加のもと、早春賦ほか春夏秋冬の楽しい歌や、オーソレ・ミオなどなど、オペラ「トスカ」「蝶々夫人」のプリマドンナとしての美しいソプラノをご披露いただき、フニクラ・フニクラの合唱で終了しました。

### RI会長代理歓迎晩餐会

千玄室RI会長代理をお迎えしての晩餐会に380名という大勢の方にご参加いただきました。これもひとえに千会長代理ならびに井上ガバナーのご人徳のいたすところでございます。

エンターテインメントでは、プリマヴェーラの美しいハーモニーと総勢45名のビッグバンドの素晴らしい演奏に全参加者が感動いたしました。プリマヴェーラもビッグバンドも特別にアンコールをいただくほどの大盛況でした。

今回は、女性アシスタントの方に司会進行していただき、ソフトムードに運営することを心掛けました。当初予測より多数のご参加をいただいた為、多少の不手際がございましたが、皆様のおかげで無事成功裡に終わったと自負しております。皆様、ご協力ありがとうございました。

### 大会2日目

地区大会2日目は大阪国際会議場のメインホールにて、第1日目に引き続き千玄室RI会長代理をお迎えして、午後1時より開催いたしました。

今回は多くのロータリアンの参加を願って、参加クラブの紹介方法が変わりました。大会役員及びRI会長代理の紹介の後、クラブ会長がバナーを持って壇上に登場すると、客席のクラブ会員がそれに応えて立ち上がり参加の意志を高らかに宣言し、その気持ちをバナーに託してガバナーに手渡す形式で、全86クラブについて行われました。同時に、今年度より誕生のガバナー補佐の紹介もIMごとに行われました。

本会議はRI会長代理として、千玄室元RI理事をお迎えして始まり、終始関西特有の和らいだ雰囲気の中で各行事がとり行われました。

そして今回は次年度に予定されている、四半世紀ぶりに日本で開催される「国際ロータリー2004年国際大会（関西）」への参加呼びかけが大きく取り上げられました。国際大会実行委員会からは第9部会PR・報道副部会長の平井義久氏に来ていただき、ビデオによる国際大会の概要を解説していただきました。

記念シンポジウムでは『新世代に引き継ぐ奉仕の理想』をテーマに、幅広い社会活動で知られる

作詞家のもず唱平氏をコーディネーターに迎え、元松下電器労組の高畑敬一氏、伏見工業高校のラグビー部総監督の山口良治氏、写真家中淳志氏の4氏をパネリストに、活発で示唆に富んだ貴重な意見を多数、聞くことができました。また、シンポジウムに先立ち、ロータリーが推進する新世代のメンバー紹介があり、若い人たちからは、地球環境を守るための国際協調のあるべき姿への提言やロータリーへの期待と課題などの話題提供も数多くありました。

シンポジウムの後、ポリオ撲滅に向けた寄付の贈呈式がありました。本地区大会の運営コスト削減から得られた200万円をポリオ撲滅に活用してもらおうと、井上ガバナーよりポリオ撲滅募金キャンペーン日本委員会の千玄室委員長に直接手渡されました。

記念コンサートでは日本の伝統芸術を通して現代の音楽シーンに独自の世界を創りつつあるアーティスト、東儀秀樹氏を迎えてのすばらしい演奏の数々に、至福の時間を堪能することができました。雅楽師としてのキャリアに止まらず、ピアノに歌に作曲にそして絵画に至るまでの、氏の幅広い才能と繊細な感性、そして芸術全体への深い洞察に改めて驚嘆させられました。そしてまた、この演奏会がロータリアンの家族にも公開され、ホールを埋め尽くす参加者全員が大会最後のイベントに相応しく、親睦と友情に満ちた交流の機会とすることができました。

メインホールホワイエでは今回、地区新世代合同委員長会議の各委員会がパネル展示で活動の一端を紹介するコーナーが設けられ、ロータリアンが活躍している写真や多彩なイラストで飾った委員会のPRを行い、普及への足がかりとしました。

また、裏千家の皆さんのご厚意で、お茶席を開設しましたところ、ご来賓の方々のみならず、多くのロータリアンから大いに喜んでいただき、大きな花を添えていただくことが出来ました。

## ロータリーの友

地区委員 神前俊彦(千里)

2002年7月、東京で「ロータリーの友」新旧地区委員の合同委員会が開かれ、「委員が何をなすべきか」についてのオリエンテーションの後、それぞれ自己紹介と抱負を述べさせられた。

オリエンテーションにおいては、各地区のPastor・ガバナーからなる委員長、顧問、常任委員、それに事務局から「ロータリーの友」がRI公式地域雑誌であり、地区委員の仕事として

- 1) 合同会議への出席
- 2) ガバナーへの連絡
- 3) ガバナーおよびその地区内会員からの意向伝達
- 4) 刊行物の編集に参画
- 5) 刊行物の購読利用普及の促進
- 6) その他、関連する事項

以上について、細かく親切な指導を受けたのだが、平たくトリミングすると、バブル経済崩壊の影響からか、全国的に会員数の減少が顕著であるうえ、折角配付しても読んでもらえない。“先ず臍より始めよ”委員が熟読し、毎号の感想文を提出せよ。2ヵ月に1回、東京での合同会議で、諸案件について積極的に発言せよ。具体的な作業としては「地区のたより」を1回編集し、「わがまち わが地区」を1回執筆せよ。

とにもかくにも、地区委員はガバナーの代行者であるから、その連絡を密にして、地区内の各種会合(地区大会、地区協議会、情報委員会、広報委員会、雑誌委員会、会報委員会)に参加して、その情報を集めると共に、自ら「ロータリーの友」刊行物のPRに努めるべし。

では、地区委員として充分務めを果たしたか? 自己採点は合格手すれすれ。以下その弁解を。

長年記事を書くことを生業にしたお陰で、モニターや具体的作業のノルマはさほど苦痛ではなかったが、ガバナーとの密なる情報交換は公式訪問で中々困難を極め、まして各種会合への参加は時間的制約で殆どゼロに近い。

ただ、「友」事務局からの要望を受け、自RC会員及び地区内86RCの会長へのアンケート調査を依頼し、皆様のご協力のお陰で100%の回答を得ることができ、事務局へ報告するとともに他地区委員からサンプルにしたいとの申し出もあり、少しはお役に立ったかなと自画自賛する。

総括としては、ガバナーを抱えるRCは、当然ながら地区大会の準備に駆り出され、かなりの精力を分散せざるを得ない。しかし、今年1月号が「ロータリーの友」の創刊50周年にあたる節目であり、二神さんという女性編集長による紙面改善への熱意を目の当たりにできたことは、望外の幸せと言えるだろう。

## 財 務 委 員 会

委員長 藤 満 宣 夫 (千 里)  
委員 下 地 民 男 (大 阪)  
同 林 恭 造 (大 阪 東)  
会 計 金 子 薫 (千 里)

井上ガバナーの決断により、地区組織のスリム化、ガバナー事務局の移転そして地区会計の健全化を提唱されました。

厳しい状況のもと会員数の漸減のおり、値上げをしないことを前提に赤字を出さない適正な予算をたてました。

一般会計を“地区運営資金”と“地区活動資金”と“地区大会資金”の3項目に分け、特別会計に事務局移転会計を、そして地区基金会計を設けました。

### [1] 一般会計

当初の予算では4,800名の会員を予定していましたが2002年7月1日の会員は4,646名でした。地区運営資金、地区活動資金において幾つかの科目に予算を超えるものもありますが、それぞれの収入枠内での決算が見込まれます。

地区大会資金についても実行委員会の諸会合で地区事務局を利用、諸経費をとことん切り詰め、しかも実りある有意義な大会として頂きました。この決算も予算枠内で執行されるものと確信しています。

本年度も中途入会者に対しても各クラブの協力により地区資金へのご負担をいただきました。

### [2] 特別会計

事務局移転会計は関係各位のご努力により、予算枠に対して364円の余剰金が出ました。そして事務局は広くなり什器備品も充実されました。

青少年交換ファンドからは後にふれます地区基金資金へ200万円を拠出していただきました。

世界社会奉仕基金についても次期へ繰越金が予想されます。

### [3] 地区基金会計

2002年4月20日(土)に行われた地区協議会の会長部門において承認を頂き、一人当たり1,000円を

地区へ振り込んで頂きました。先の青少年交換ファンドからの200万円と合わせ6,645,017円を地区事業に関わる緊急対策資金として次期へ繰越します。

年度予算の周知徹底をはかり各資金の適切な執行、そして各支出に対しての敏速な把握に努めて参りました。そして地区の健全会計を実現できたと思います。

次年度へは予算額以上の繰越金を出すべく、残された任期を全力で取り組む所存です。関係各位のご協力を深く感謝申し上げます。

2002～2003年度 国際ロータリー-第2660地区 地区資金決算書

2002年7月1日～2003年4月30日

ガバナー 井 上 暎 夫  
地区財務委員長 藤 満 宣 夫  
地区会計 金 子 薫

地区運営資金

【収入の部】

\* 単位は全て(円)

科 目	予 算 額	収 入	備 考
1. 地区資金 8,000円	38,400,000	37,341,000	
2. R I助成金	1,800,000	1,961,229	
3. 雑収入	3,000,000	5,409,498	預金利息・冊子収入
4. G E事務所経費引当金戻入	5,000,000	5,000,000	
収 入 合 計	48,200,000	49,711,727	

【支出の部】

科 目	予 算 額	支 出	備 考
A. 負担金			
1. ガバナー会	960,000	925,400	
2. ロータリー文庫	1,440,000	1,388,100	
小 計	2,400,000	2,313,500	
B. 会議費			
1. 地区チームL T S	70,000	68,220	
2. 会長エレクトT S	800,000	777,755	
3. 地区合同委員会	1,000,000	1,171,362	
4. 財団セミナー	450,000	354,329	
5. D G P G G E会議	1,800,000	863,265	
6. G補佐・地区幹事会	100,000	87,780	
7. G E国際協議会	830,000	830,000	
8. 予備費	200,000	0	
小 計	5,250,000	4,152,711	
C. ガバナー事務所費	22,210,000	15,860,030	
D. 前期G E事務所経費	5,000,000	4,973,216	
E. エレクト事務所費	5,000,000	5,000,000	
F. ガバナー月信費	6,000,000	5,664,413	
G. ガバナー補佐経費	800,000	250,101	
H. アドホック・R研究会	1,000,000	241,181	
I. 総予備費	500,000	0	
支 出 合 計	48,160,000	38,455,152	
年度収支差額	40,000	11,256,575	
前 期 繰 越 金	4,512,093	4,512,093	
次 期 繰 越 金	4,552,093	15,768,668	

ガバナー事務所経費

科 目	金 額	支 出	備 考
1. 家賃・光熱費	5,220,000	3,888,968	
2. 給料・手当	8,820,000	7,396,000	
3. コンピューター関係	360,000	249,900	
4. D G交通会合費	900,000	409,760	
5. 印刷費	1,800,000	739,215	
6. 交通通信費	1,800,000	1,303,885	
7. 文献費	180,000	44,577	
8. 事務用品費	1,080,000	165,500	
9. 什器備品費	300,000	792,981	
10. 雑費	1,350,000	869,244	
11. 予備費	400,000	0	
合 計	22,210,000	15,860,030	

地区活動資金

【収入の部】

\* 単位は全て(円)

科 目	予 算 額	収 入	備 考
1. 地区資金 7,500円	36,000,000	35,027,500	
2. 雑収入	0	37	
収 入 合 計	36,000,000	35,027,537	

【支出の部】

科 目	予 算 額	支 出	備 考
A. 地区委員会活動費			
1. DG指名(委)	135,000	17,960	
2. 意義ある業績賞(委)	45,000	630	
3. クラブ奉仕部門			
クラブ奉仕(委)	600,000	53,352	
拡大・増強(委)	270,000	113,756	
情報・広報(委)	1,340,000	739,890	
4. 職業奉仕部門			
職業奉仕(委)	180,000	77,337	
5. 社会奉仕部門			
社会奉仕(委)	1,200,000	536,695	
6. 青少年奉仕部門			
新世代合同委員長会議	50,000	780	
青少年活動(委)	2,400,000	1,010,444	
ローターアクト(委)	4,500,000	4,365,038	
インターアクト(委)	2,400,000	1,809,575	
7. 国際奉仕部門			
国際奉仕(委)	150,000	52,515	
世界社会奉仕(委)	440,000	404,932	
青少年交換(委)	300,000	0	
8. ロータリー財団部門			
ロータリー財団統括会議	100,000	96,146	
財団情報・増進(委)	50,000	39,134	
財団奨学金・学友(委)	1,850,000	890,075	
研究グループ交換(委)	4,900,000	2,040,886	
財団人道的補助金(委)	290,000	219,887	
9. 米山奨学部門			
米山奨学(委)	500,000	0	
10. 予備費	700,000	0	
小 計	22,400,000	12,469,032	
B. 青少年交換ファンド	12,000,000	11,567,500	
C. R I 会長DG強調事業費	1,600,000	1,145,402	
支 出 合 計	36,000,000	25,181,934	
年度収支差額	0	9,845,603	
前期繰越金	0	0	
次期繰越金	0	9,845,603	

地区大会資金

【収入の部】

\* 単位は全て(円)

科 目	予 算 額	収 入	備 考
1. 2001～02地区大会剰余金	5,878,000	5,878,000	
2. 地区資金 9,500円	45,600,000	43,953,500	
3. 晩餐会登録料	0	6,270,000	
4. 雑収入	500,000	49	
収 入 計	51,978,000	56,101,549	

【支出の部】

科 目	予 算 額	支 出	備 考
1. 大会運営費	50,210,000	10,519,540	
2. R I 会長関係費	430,000	0	
3. 直前D G 記念品	260,000	0	
支 出 計	50,900,000	10,519,540	
年度収支差額	1,078,000	45,582,009	
次期繰越金	1,078,000	45,582,009	

地区基金会計

【当期組入額】

\* 単位は全て(円)

科 目	予 算 額	収 入	備 考
1. 地区拠出金	4,800,000	4,646,000	
2. 青少年交換ファンドより	2,000,000	2,000,000	
3. 預金利息	0	17	
組 入 計	6,800,000	6,646,017	
次期繰越金	6,800,000	6,646,017	

(地区事業に関わる緊急時対策資金)

特別会計

1. 事務局移転会計

【収入の部】

\* 単位は全て(円)

科 目	予 算 額	収 入	備 考
1. 敷金返還	6,776,700	6,776,700	
2. 2000～01地区大会残金	2,000,000	2,000,000	
収 入 計	8,776,700	8,776,700	

【支出の部】

科 目	予 算 額	支 出	備 考
1. 原状回復工事	945,000	945,000	
2. 廃棄処分引越し費用	500,000	691,110	
3. 新事務局 保証金	3,000,000	3,000,000	
4. 造作・什器備品費	4,300,000	4,114,931	
5. 雑費	31,700	25,295	
支 出 計	8,776,700	8,776,336	
収 支 差 額	0	364	

2. 青少年交換ファンド

委員会：青少年交換委員会

委員長：近藤 眞道

【収入の部】

\* 単位は全て(円)

科 目	摘 要	予 算 額	収 入
前 年 度 繰 越 金	うち緊急時対策特別準備金 2,000,000円	9,000,000	10,037,939
各クラブよりのファンド受入金	2,500円/人×4,800名	12,000,000	11,567,500
派遣学生プログラム参加費	100,000円/人×15名	1,500,000	1,400,000
受入学生研修旅行負担金	30,000円/人×15名	450,000	0
行事参加登録料収入		840,000	845,500
会合費YEO自己負担額		395,000	0
研修旅行自己負担額		1,600,000	0
雑 収 入		0	43,697
収入の部 合計		25,785,000	23,894,636

【支出の部】

科 目	摘 要	予 算 額	支 出
受入クラブへのファンド戻し金	800,000円×15名	12,000,000	10,400,000
会 議 費		270,000	1,918,555
会 合 費		980,000	
行 事 参 加 費		2,300,000	1,566,255
研 修 旅 行 費		2,900,000	844,616
通 信 費		200,000	348,098
事務局雑費一部負担		120,000	100,000
ローテックス運営費		500,000	161,700
派遣学生各種費用	制服、ローテックス入会金他	1,500,000	0
緊急時対策保険料		390,000	0
精神科ドクター顧問料		120,000	0
印 刷 費		200,000	257,250
雑 費		200,000	260,452
支出の部 合計		21,680,000	15,856,926
地区基金への組入	緊急時対策準備金として	2,000,000	2,000,000
次期繰越金		0	6,037,710

3. 世界社会奉仕基金

委員会：世界社会奉仕委員会

委員長：長澤 利治

【収入の部】

\* 単位は全て(円)

科 目	摘 要	予 算 額	収 入
前 期 繰 越 金		0	585,735
ク ラ ブ 抛 出 金			4,010,000
特 別 基 金		0	0
雑 収 入		4,500,000	252
収入の部 合計		4,500,000	4,595,987

【支出の部】

科 目	摘 要	予 算 額	支 出
支 援 金		4,500,000	2,787,519
雑 費		0	3,465
支 援 金 払 い 戻 し		0	630,000
支出の部 合計		4,500,000	3,420,984
次期繰越金		0	1,175,003

4. 米山奨学生活動費

委員会：米山奨学委員会  
委員長：中澤章好

【収入の部】

\* 単位は全て(円)

科 目	摘 要	予 算 額	収 入
(財)米山記念奨学会補助	50,000円×49名	2,450,000	2,450,000
レクリエーション参加費		0	417,000
選考試験補助費		0	472,500
預金利息		0	11
収入の部 合計		2,450,000	3,339,511

【支出の部】

科 目	摘 要	予 算 額	支 出
米山活動費		2,450,000	0
レクリエーション		0	1,159,381
選考費		0	320,840
歓送会		0	615,016
雑費		0	2,730
支出の部 合計		2,450,000	2,097,967
次期繰越金		0	1,241,544





